



くすり博物館だより

〒483 岐阜県羽島郡川島町・内藤記念くすり博物館・058689—3111

第5号



▲ 適塾正面玄関



▲ 塾生大部屋

適塾修復・史跡公園化記念

「緒方洪庵と適塾」展

—大阪・福岡・川島・東京の4会場で—

慶応義塾の福沢諭吉や、大村益次郎、橋本左内などが輩出した適塾を開いたのが緒方洪庵です。大阪に現存する適塾が、このほど改体修理を終わり、これを記念してこの特別展が開催されることになりました。お近くの会場でぜひご覧下さい。

主催 適塾記念会
内藤記念科学振興財団
後援 大阪大学 日本医師会 慶
応義塾大学 九州大学

大阪府医師会 大阪府教育
委員会 大阪市教育委員会
福岡県医師会 福岡市医師
会 福岡県教育委員会 福
岡市教育委員会
愛知県医師会 岐阜県医師
会

大阪 三越大阪支店
5月27日～6月8日
福岡 岩田屋
6月11日～6月16日
川島(岐阜県) 内藤記念くすり博物館
6月20日～7月20日
東京日本橋 三越本店
7月29日～8月3日



▲ 洪庵53才の像

開催のごあいさつ

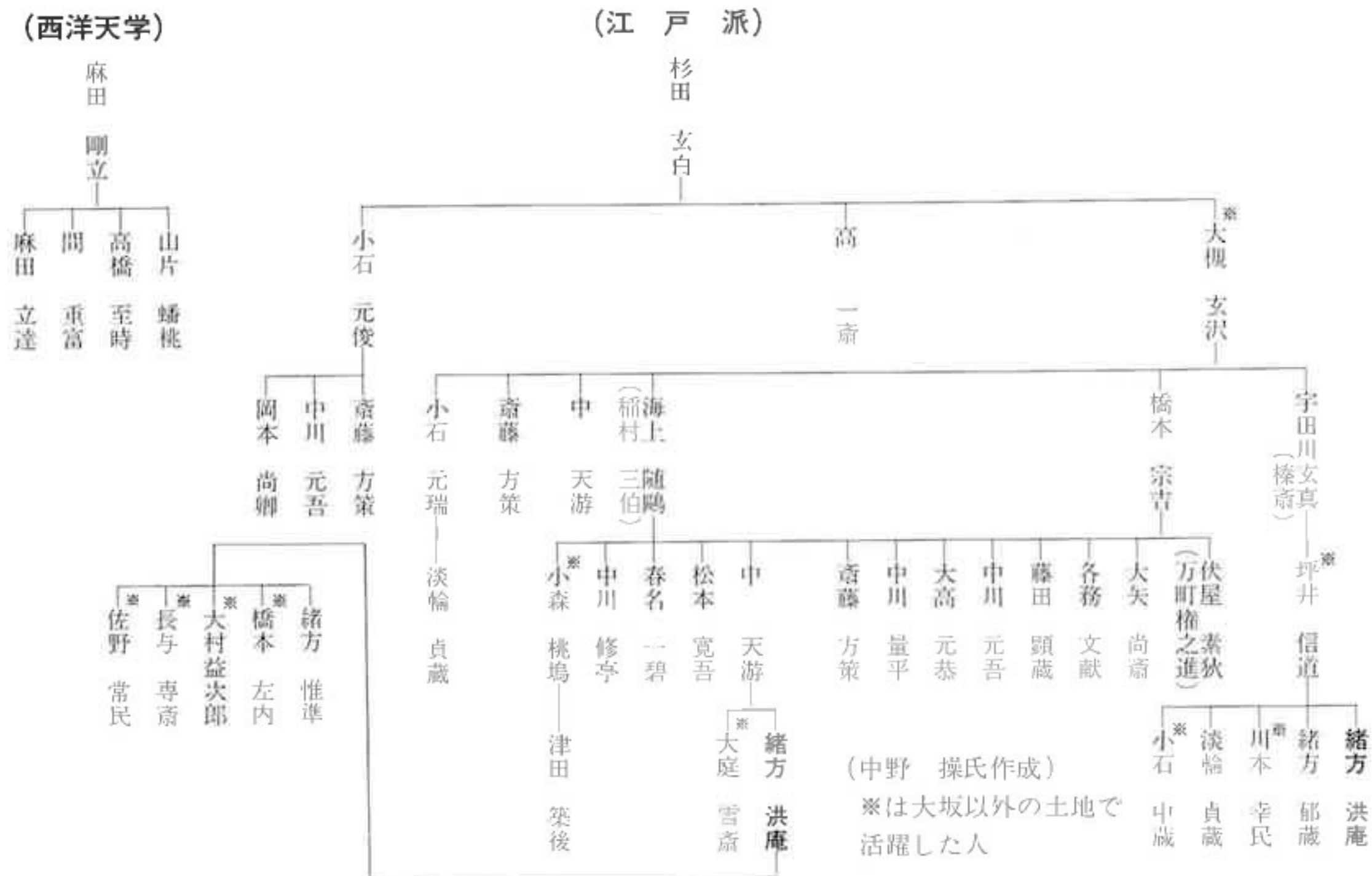
適塾は日本の近代国家への発展に貢献した数多くの人材を育成しました。その適塾の解体修復が完成し、周辺の史跡公園化も実現することになりました。

これを記念し「緒方洪庵と適塾展」を開催いたします。伝統はその姿を継承するのみでなく、その魂を受けつぎ、これを実現させなければなりません。適塾が未来へのすぐれた遺産となるとともに、新しい歴史への一步を踏み出す精神的基盤となることを期待する次第です。

この特別展開催にご協力賜りました方がたに心から御礼申し上げます。

適塾記念会
会長 山村雄一
内藤記念科学振興財団
理事長 内藤祐次

大坂蘭学学統一覧図



緒方洪庵 (1810—1863)

備中足守の藩士惟因の末子。名は章，字は公裁，もと三平といった。元服後，大坂に出て，17才で，中天游に就いて西洋医学を修め，ついで22才の時，江戸に下って坪井信道の門に入った。また，宇田川榛齋に学び，さらに長崎に赴いて蘭医と親交し，29才の時，大坂で開業。適塾を開き，逸材を育成した。

文久2年（1862）幕府に出仕し，法眼に挙げられ，奥医師兼西洋医学所頭取となったが，翌年6月10日病没した。齢54才。墓は駒込高林寺にある。「病学通論」「扶氏経験遺訓」「虎狼痢治準」などの著書がある。除痘館を建て，牛痘の普及にも貢献した。

洪庵の号「適々齋」は，莊子太宰師篇にある句に暗示をうけたもので，「他人に役せられず，物に役せられず，己の適とするところを適とする」の意味である。



◀ 洪庵の生家跡（岡山県指定史跡）今は生家はなく，

産湯の井戸を残すのみである。

▶ 洪庵の薬箱

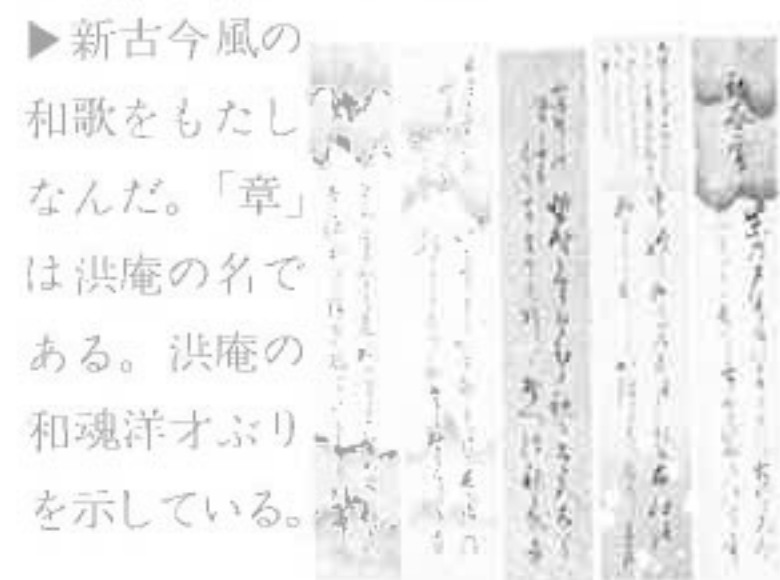


◀ 当時流行町問診医師見立
相撲番付に見立てて大坂の町医者を格付けしたもの。開業10年後の嘉永元年（1848）には最高位の大関となっている。



◀ 夫人八重

洪庵は開業して間もなく，名塩（西宮市）の医師の娘，八重17才と結婚。賢夫人の誉たかく，病弱の洪庵をよく助け，塾生たちからは慈母のように慕われる一方，7男6女の母として子弟の養育に努めた。



▶ 新古今風の和歌をもたしななだ。「章」は洪庵の名である。洪庵の和魂洋才ぶりを示している。



◀ 福沢諭吉旧蔵の硯箱

洪庵の形見の品と伝えられている。

種痘の普及

嘉永2年(1849)7月、初めて牛痘苗が輸入され、11月福井藩医笠原白翁より分苗してもらった洪庵は、大坂に除痘館を設立する一方、痘苗の供給と、痘医の養成にあたった。

▶ 除痘館
発行の痘
医許可書



▲牛痘接種啓蒙の引札(ちらし)

適塾

長崎遊学を終えて大坂に帰った洪庵が、瓦町で開業すると共に蘭学の塾を開いたのは、天保9年(1838)29才の時である。5年後の天保14年には、そこも手狭になったため、過書町(東区北浜)に規模を広げて移転した。この塾は「適々齋塾」あるいは「適々塾」とも呼ばれ、ここから明治の新日本建設にたずさわる幾多の英才が巣立った。



▲姓名録

適塾に入塾した門下生、636名の名が残されている。入塾の年月日、出身地、姓名のほか身上に関する記載もある。塾生の出身地は、ほとんど全国に及んでいる。

◀ 村田蔵六の
代数のノート

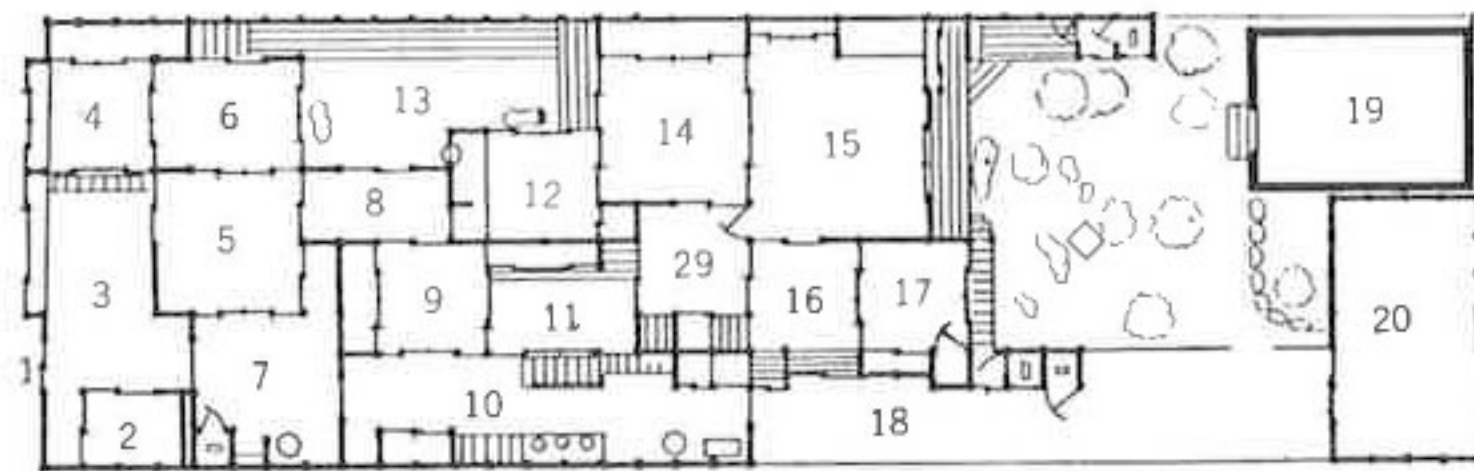


▶ ツーフアルマ

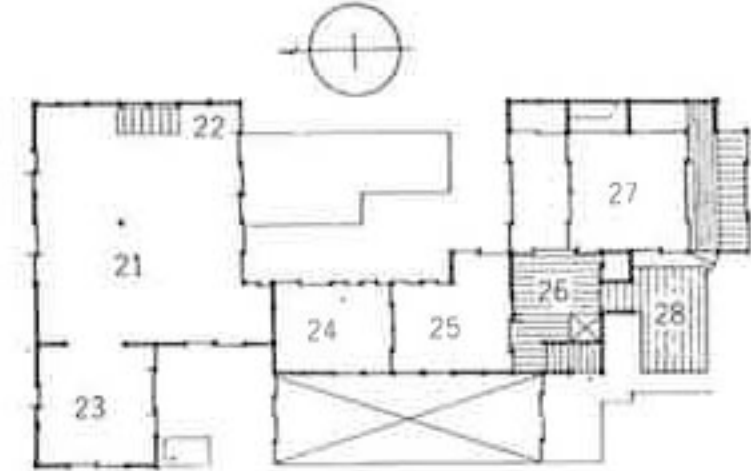


▼ 適塾平面図

1 入口	15 奥座敷
2 待合土間	16 世帯部屋
3 玄関土間	17 夫人部屋
4 玄関	18 空地
5 第1会読部屋	19 土蔵
6 第2会読部屋	20 物置
7 土間	21 塾生大部屋
8 応接部屋	22 塾頭はここで起臥
9 塾生食事部屋	23 塾生小部屋
10 炊事場	24 ツーフ辞書部屋
11 家族食事部屋	25 女中部屋
12 書斎	26 板間
13 中庭	27 2階座敷
14 次の間	28 物干場
	29 茶の間



(1階平面図)



(2階平面図)

適塾の出身者

緒方惟準と大阪医学校

洪庵の次男。彼によって明治2年大阪大福寺に開かれた仮病院は、後に大阪医学校となり、さらに現在の大阪大学医学部の源流となった。



杉亨二と統計学

藩所調書手伝の時代にバククルの「万国史」やバイエルンの「教育統計」を読んで統計学の重要性を知り、後年、日本統計学の開拓者となった。

大村益次郎(村田蔵六)と兵制改革

塾頭をつとめた彼は、適塾で身につけた蘭書解読力を宇和島藩、長州藩での兵学書翻訳に役立てたことが機縁となり、第2次長州征伐の石州口での幕軍との戦で、戦略家としての実力が認められた。続く上野戦争東北戦争で官軍を指揮して幕末戦争を収束し、明治維新政府の兵部大輔として日本の兵制改革に乗り出したが、明治2年京都で兇刃にたおれ、大阪大学医学部の前身に当たる大阪

医学校病院で手当てを受けたが、それもむなしく亡くなった。



▲蔵六の提灯



▲軍鑑の設計図

長與専齋と衛生行政

明治8年初代衛生局長となり医制を公布、コレラ予防、日本薬局方の

起草などに尽力し、衛生行政の先覚者となった。

高松凌雲と佐野常民 日本赤十字社

凌雲が五稜郭の戦いで敵味方を論ぜず傷病兵を治療したのが、わが国において赤十字思想を実施した最初といわれ、これが西南戦争における博愛社の精神につながった。



常民は、博愛社を設立、これが基となって明治20年（1887）に日本赤十字社を設立。彼はこのほか、海軍設立、万国博覧会出品、美術工芸家の保護などにも活躍した。

橋本左内と開国論

適塾を出て数年後、開国論による公武合体論を進めて將軍後嗣に一橋慶喜を擁立しようとしたために、安政の大獄で捕えられ、26才で没した。



しかし、左内や吉田松陰の死は明治維新の原動力となった。

大鳥圭介と外交

維新後、清国への大使、朝鮮への公使となって明治の外交界に活躍する。また、花房義質も清国、朝鮮、露国との外交交渉に尽くした。



福沢諭吉と慶応義塾大学



▲自筆の名刺 ▲29才の諭吉

塾頭をつとめた彼は、のち藩命（豊前中津）により、江戸に出て築地の奥平藩邸で塾を開いた。これが慶応義塾の始まりである。咸臨丸による渡米から始まった福沢の外国体験は「西洋事情」「文明論之概略」「学問のすゝめ」などの多数の著作になる。また、明六社を起こして、明治の文明開化の啓蒙運動を展開した。

伊藤慎蔵と大野藩洋学館

洪庵の語学教育は一字一句の解釈よりもその文意をつかむことにあつたといわれている。安政元年（1854）突如大阪に入港した露艦パルラダ号のプウチャーチンとの交渉に、洪庵の代理として彼が立派に通訳を勤めたことから、適塾の語学の実力が伺える。

都道府県別適塾門下生

門下生の出身地は、ほぼ全国にわたっている。



▲適塾のふすまの下張りから発見された洪庵の振手形

洪庵が振出人、両替屋毛馬屋茂三郎が支出人、天嘉・三井が受取人である。今でいう当座小切手で、現行の銀行制度とほとんど変わらない。今回の改体修理の際、発見されたもの。

とびつくす

▶シカゴ科学産業博物館長来館

2月21日、シカゴ(米)の Museum of Science and Industry のダニロフ館長が来館。同館は、ミュンヘンのドイツ博物館と並ぶ世界最大の科学博物館で、米国でも無類第一級の博物館として知られています。去る52年、当館の青木館長渡米の際、同氏と会見、今回の同氏の日本視察(わが国の主要科学博物館)については、当館にアレンジメントの依頼があり、滞在中のお世話をしました。

▶東京の茗荷谷駅前、桐山ビル(エーザイ本社別館)のショーウィンドウでの「くすりの歴史は人類の歴史」展は、小スペースながら季節感を盛り込んだ地道な企画で親しまれています。3ヵ月ごとに展示替えをしています。

▶ハイデルベルグのドイツ薬事博物館の案内書(日本語版)を再版

同館を訪れる日本人が意外に思い、また重宝すると好評の日本語版案内書は、実は当館が出版し同館に贈呈

していたものです。この程、内容を刷新、再版したので、近く同館に送ります。同館を訪れる外国人は、アメリカ人と日本人が多いそうです。

▶年間来館者数2万人突破

昨年度(54年4月~55年3月)の来館者は20,079人、一日平均66人でこれまでにない盛況ぶりでした。

▶らんびきのミニチュア は、わずか15cm足らずの焼物ですが、構造も忠実に再現しました。おみやげにご利用下さい。2,000円で頒布しています。